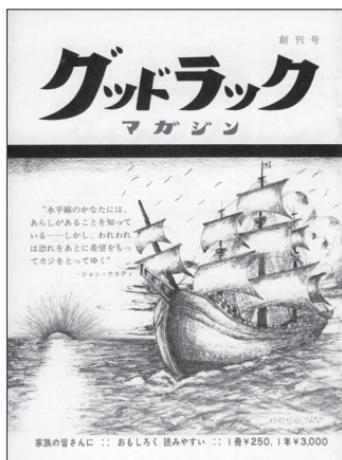


45周年に寄せて

part2



1977

2022

11月号に引き続き、各界及び読者の皆様から弊誌にお寄せいただいた、激励のメッセージをご紹介します。

人々を元気づけるタウン誌に

日本海ガス絆ホールディングス(株)

代表取締役社長 新田 洋太郎



このたび、創刊45周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

創刊された1977年は2度のオイルショックの間で日本経済が後退する中、富山を魅力ある街、楽しい街にするため、読者と共に考える月刊誌をコンセプトに、今日まで継続して発行されてこられた皆様のたゆまぬご尽力に対し、敬意を表します。

これからも富山の街、人々を元気づけるようなタウン誌であり続け、創刊50年、更に100年目指し、貴社の今後ますますのご発展を祈念いたします。お祝いの言葉とさせていただきます。

長年にわたる信念と情熱

富山県オペラ協会名誉会長

水の都とやま推進協議会会長

滝廉太郎研究会会長

浅岡節夫



『グッドラック』創刊当時、オペラ座のある街、富山という一文を寄せたが、富

山市でホールの構想が始まった時期であり、その一文が当時の設計者の目にとまり、今日のオーバードホールになったこと。滝廉太郎に関しては、長い間研究や演奏会を継続してきた成果として、「荒城の月」と富山城を結びつけることを公に認められ、百科事典や富山市の副教材にも掲載されたことは非常に喜ばしいことと思う。長きにわたり、信念と情熱を持ち続けている中村氏に、多大なる敬意を表します。

「積土成山」の心で

司法書士

磯野敏雄



『グッドラック』とやま創刊四十五周年を迎えられて、心よりお慶びを申し上げます。

富山市の中心地を流れる松川、いたち川の由来を主に、周辺景観を活用しながら観光と地域文化の活性化を目指して懸命に貢献されてきました。

この間、永い年月の過程で、紆余曲折による困難を乗り越えられての辛苦に謹んで敬意を表します。

「積土成山」は、私の大切にしている言葉ですが、小さな努力を積み重ねれば大事を成す例えもあり、今後とも貴誌の不退転のご努力と共にご発展されることをご祈念申し上げます。

心に残る『富山の社長2』

新村こうじみそ商店

代表社員 新村弘之



このたび、創刊45周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

十年前、富山駅の書店で本の表紙デザインとタイトルに惹かれ購入した『富山の社長2』は、富山で活躍される人物を取材された貴誌の「Interview」コーナーを綴ったものでした。夢になつて読み、感銘を受けたことを覚えております。これからの時代を担う若者に見せたい参考書にもなります。これからも楽しみにしております。

松川を活かすアイデアを提案

元富山土木事務所長 今井清隆



創刊45周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

さて、御社とのお付き合いは、私が公僕として働いていた25年前でした。あの頃の中村社長さんは、松川を水の都・とやまに再生するため懸命に



取り組んでおられた時代でした。私はその姿に感銘を受け、少しでもお役に立てばとお付き合いをさせていただきました。中でも2000年に完成した、松川茶屋対岸のリバー劇場建設に関わることが思い出の一つです。こは毎年開催される「リバーフェスタ」での吹奏楽やギター、胡弓、琴の演奏、フラダンスなどが披露され、対岸の観客席や遊覧船から楽しめる場所となつていきます。

また、私の心に残る事としては、2003年に「松川の舟運」を「とやまの街づくり」に活かせないかを探るため結成された富山市観光議員連盟が、アメリカのサンアントニオ市を視察された中に関係者として加えていただいたことです。この視察中に感じたことは、「松川を活かした街づくり」に対する中村社長の思い入れと熱意の深さでした。

その後、「水の都」の歴史を生かし、県都の魅力づくりを！や「松川に水の都のシンボルをつくらう」などの有

意義な意見が多く出され、今後、それをどのよう具現化するかが課題となつているように思います。

一層のご発展と皆様方のご活躍を祈念致します。

地域への熱い思い

富山国際大学客員教授

(元一般財団法人北陸経済研究所理事長)

川田文人



創刊45周年おめでとう

とうございます。タウン誌として約半世紀にわたる歴史を重

ねてこられた原動力は、発行人である中村孝一さんの地域への熱い思いだと感じています。常に富山市はどうあるべきかを問い続け、松川を中心とした街づくりを提案してこられました。

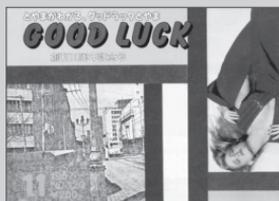
その姿勢たるやストイックであり情熱的であります。否応なく周りの人を感化し、巻き込んでいきます。私もその一人です。今後の益々のご発展をお祈り申し上げます。

創刊記念号表紙から振り返る『グッドラックとやま』の歩み



創刊20周年(1997年11月号)

松川で運航する笹舟と大型船「滝廉太郎II世号」が表紙。船の世代交代を感じさせる。



創刊10周年(1987年11月号)

表紙は、富山大学教育学部美術科専攻の学生によるコラージュ作品を採用。

滝廉太郎と富山について啓蒙

音楽家 黒田素子



この度は創刊45周年、誠におめでとうございます。

「水の都とやま」に

関して、富山城址や松川べりの歴史を讀むのはとても楽しいです。アメリカのサンアントニオ市とまではいいかなにしても、富山市民の心がもつと豊かになるような空間ができれば良いなど思っています。滝廉太郎と富山の関わりについては、いろんな企画を通して啓蒙することができ、市民の意識に伝わったのではないかと思います。

祈り申し上げます

創刊以来540冊のお付き合い

読者代表 小池正俊



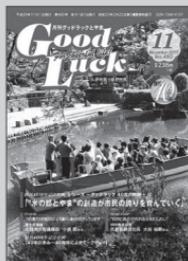
創刊45周年おめでとう御座います。

私がこの雑誌と出会ったのは40歳の頃

でした。それから45年間(540冊)と付き合い、85歳になりました。初刊から6〜7年間は仲間と読書会などを開き、あれやこれやと議論したことが思い出されます。その仲間も少なくなりましたが、話しあつた意見は今なお雑誌に残されている所があり、感慨深いと思います。以後も元気な限り、読書イベントに参加し協力したいと思います。

これからも雑誌の基本は忘れることなく、日進月歩工夫され、継続をお願いします。又、富山県、富山市の責任のある関係者及び富山市民の皆様へ、グッドラック編集長が30年以上ご提案して来た市中心の松川をどうするのか、又富山城址公園を含む中心街をどうするのか、積極的な取り組みを望みます。

〈順不同〉



創刊40周年(2017年11月号)
緑豊かな松川を、多くの観光客を乗せて進む松川遊覧船。



創刊30周年(2007年11月号)
アメリカ・サンアントニオのリパーウォークと遊覧船。



創刊25周年(2002年11月号)
アメリカ・サンアントニオの賑やかなリパークルーズ。